主な委員会の活動方針

当委員会では、主に土木協会員（舗装、土木工事、上下水道会社）が今直面している問題点について、昨年までの懸案事項（地域建設業者のインセンティブなど）を加え、さらに今年度3月31日突然施行された入札契約制度改革も含め計6回の委員会を通して議論を重ね、今年も集大成として東京都建設局との意見交換会を行いました。

2017年度の土木舗装委員会の主な会議並びに実施項目

1．東京都建設局から依頼された各種アンケートの実施（建設局の各種仕様書及び標準仕様書の各種要望等）の取りまとめ作業

2．3／31東京都入札契約制度改革について要望のとりまとめ作業

3．都中建協会員企業の実働日数及び発注者都合で予定通りに着工の出来ない工事本数等のアンケートの実施

4．東京都建設局技術管理課との意見交換会の実施

2017年度東京都技術管理課（12／19）との意見交換内容

① 書類の簡素化

請負者提出書類基準の添付書類に、重複した書類が多く簡素化の妨げになっている現状の説明の具体例として下請人使用届と施工体系台帳では添付書類に同じものを要求されていること、ほかにも施工計画書を提出する際の手直しの煩雑さなどを訴え、現状書類の簡素化を提案して参りました。

② 施工の平準化

中小建設業者の技術者・技能者動員力からすると、実際に施工する時期が通年で平準化されないと、せっかく公表された案件に不本意ながら応札できない場合が考えられ、特に保安要員の不足は深刻であることを訴え、実際に施工する時期を平準化すると共に、きちんと事前協議が整った上での発注のお願いをして参りました。

③ 働き方改革に伴う工事の作業時間のあり方

働き方改革の一つとして、残業の抑制があります。残業を月平均60時間以内に収めるとのこと、しかしながら昼間施工の場合、日々の材料・機材廻送を設計に入れているものの、毎日現場の行き帰りだけで2～3時間程度要し一カ月では60時間にもなり、これだけで残業の上限に達してしまう事実は、請負者の努力範囲を超えている実情の説明。これらの対策について、発注者とともに一緒に考えて頂きたいとのお願いをして参りました。

「入札契約制度」柱に

土木舗装委員長　鳥越　雅人

労働資材委員会は2つの核となる事業があります。今年もその事業に今以上の実績を残せるようにしたいと考えております。

先ず厚労省建設労働者緊急育成事業です。担い手確保のため、建設業経験者でもまったくの異業種からの人でも参加できる研修会（大多数の方が異業種）を今年も3月、6月、10月に開催する予定です。約一か月に渡って座学はもちろん現場見学、型枠・鉄筋・クレーン・玉掛け等の実習をしていただき、終了後都中建会員の求人希望企業と面接会を行い入社していただく事業です。今年もこの事業に対しより活発になりますよう、1回10～15名の研修参加者を出来るだけ増やし、もっと多くの方に参加していただき、会員の企業に1人でも多く入社していただくようにしたいです。

もう一つが、会員企業に新入社員が入っていただけますよう、工業高校・専門学校・大学に働きかけているところであります。日本工学院専門学校において毎年、都中建の会員企業対象の合同企業説明会を蒲田校と八王子校両方で開催させていただいており、昨年も6名の内定者が決まっております。今年も日本工学院の先生と具体的な話が進んでおり、昨年以上の内定者を出したいと考えております。また、経営者講習会を毎年開催しており、昨年は「新人離職防止定着化」についての勉強会を行い、今年も会員経営者の役に立つ経営者講習会を行いたいと考えています。

新卒、異業種幅広く

労働資材委員長　森　栄

この度働き方改革及び生産性向上特別委員会の委員長に就任しました、株式会社朝倉組代表取締役朝倉泰成です。

政府が、我々建設業界に『働き方改革・生産性向上』を求めてきています。

このことは、我々建設業界にとって「建設業が魅力ある業界」に変身するチャンスとしてとらえるべきでしょう。

建設業界は、「きつい」「汚い」「危険」の3K職場の代表です。

各建設会社は、独自に、休日取得の促進・職場環境の改善・福利厚生の充実・メンタルヘルス対策等、従業員の労働環境の改善に真摯に取り組んできましたが、効果は限定的だと言わざるをえません。

現地一品生産を請負う建設業は、価格・工期・品質等において、発注者側の意向が優先し、受注者側は受け身の立場にあります。

建設業の『働き方改革』には、発注者側の理解と協力が不可欠ですが、国土交通省は「建設工事における適正な工期設定等のためのガイドライン」を策定し、全面的に理解と協力を示しています。

国が指針を示した今、従来、各社が独自に改革努力をしてきた建設業界が一致団結して、腹を割って協議し、対策を立て、実行してみるべきではないでしょうか。

例えば、「建設作業員を維持するには日給を1・2倍にするか、月給制への移行が必要かもしれません。

休日が増えれば、従来通りの工事の方法では「生産性」がおちます。

単純に考えれば、工期が延び、仮設費等が膨らみます。

こうした工事原価の上昇分は、生産性を向上させることで、吸収しなければ、生き残れない時代に直面しています。

国土交通省では、『建設現場の生産性革命』として、調査から施工、検査に至る建設プロセス全体を3次元データでつなぐなど、新たな建設手法の導入に取り組んでいますが、当面は規模の大きな工事現場に限られるでしょう。

それでは、我々地元に根付いた中小規模の建設会社は、何が出来るのか。

皆さん、一緒に考えてみましょう。そして、挑戦してみましょう。

今年が、建設業界にとって、「給料が良い」「休暇が取れる」「希望が持てる」の新3K職場への変身チャレンジの元年になることを期待しています。

魅力ある業界へ新3K

働き方改革・生産性向上特別委員長　朝倉　泰成

・技能者の賃金」について、現状は日給制が大半です。

週休1日から2日に単純に移行すれば実質賃下げになります。支払賃金

5組のカップル成立

第2回婚活パーティー

都中建

東京都中小建設業協会は昨年11月22日、東京・新宿区新宿の東京新宿ワイン事務所で「婚活パーティー」（津々良智彦プロジェクト委員長）を開いた。7月に次ぐ2回目。今回は前回の4組を上回る5組のカップルが成立した。

男性は、都中建会員企業に勤める35歳以上の募集に29歳～59歳、女性は一般参加も可で30歳以上の募集に32歳～46歳の各10名が参加。パーティーは、津々良委員長の挨拶のあと、持ち時間2分30秒でひと通り全員がプロフィールを紹介しあったあと、フリートーキングと進んだ。当初は、積極的に会話、アプローチする人が少なく、なかなか話しかけられず、他の参加者の会話を聞く傾向が強かったが、時間が経過、また、アルコールが入るに連れて会話も弾み、中盤から終盤にかけては楽しそうな談笑の輪が拡がった。

会話をそれとなく拝聴していると、男性陣からは「女性と出会いの場が（全く、ほとんど）無い」の声が数多く聞こえてきた。中には、「会社に若い女の子はいるが、オジサンとしか見てくれない」との訴えも。女性の一人は、「初めて婚活パーティに参加した。楽しい！」と話していた。

『プロフィールカード』には、名前、年齢、血液型、身長、住所（○区・○市）、出身地、最終学歴、職業、年収、家族構成、現在（同居・一人暮らし）、休日、趣味、休日の過ごし方、好きなタイプ、自分の性格、好きな映画・テレビ番組、お酒（好き・ほどほど・飲まない）、たばこ（吸う・ときどき・吸わない）、料理（する・ときどき・しない）、ペット（いる・種類――・いない）、どちらかいうと（甘えたい・頼られたい）、結婚歴（なし・あり　子どもの有無）を記載。『カップリングカード』は、男女それぞれ第3志望まで書き、5組が成立。成立したカップルは参加者一同の前に出て半ば強制的に手をつなぐよう求められた。当初は一同照れと戸惑いの表情を浮かべつつも、その対応はしっかり握手する人、遠慮がちに握る人など様々だった。

パーティは、予定の時間を大きくオーバー。鳥越雅人副会長の、腰を落として人差し指と親指で拍子を打つ時代劇『伝七捕物帳』の締めバージョン「よよよい、よよよい、よよよいよい。めでてぇな！」で中締めとなった。

なお、パーティー中に「連絡先を教えて」の一言が言えなかった人には、もう一度アプローチするチャンスも用意されている。協会にその旨を伝え、相手先の了解を得られると、連絡先を教えてもらえる仕組み。

婚活パーティーは、参加費が男性3000円、女性2000円で、会員企業には参加者1人につき5000円の協賛金を募った。

（写真は、参加者のプライバシーを考慮して一部暗く処理しています。実際のパーティは明るい中で行われました）

挨拶する津々良委員長

手の繋ぎ方も様々

「プロフィール」を交換

歓談の様子

指拍子で「めでてぇなあ」